

## 「一度は訪ねたい美しい図書館」ランキング5位 塩尻市立図書館に、人が集まるワケとは？

### 「本の寺子屋」が地方を創る

塩尻市立図書館の挑戦

長野県中央に位置する人口6万7千人の小都市。  
そこに多くの小説家、評論家、詩人、歌人、俳人たちが訪れる図書館がある。

〈「本」の可能性を考えたい〉をテーマに掲げる図書館員と、その言葉を信じる市民、本をめぐる人々の、挑戦の軌跡を描いたドキュメンタリー。



#### ■企画趣旨

高齢化が進む地方都市の一つでありながら、長野県塩尻市の公共図書館が、今図書館関係者のあいだで脚光を浴びている。その中心事業が2012年7月に始まった「信州しおじり 本の寺子屋」。「本の魅力を発信する場」という役割以上に、地域住民が、再び地域とのつながりを取り戻し新たな交流を始めるための「基盤づくり」という、地域にとって不可欠な役割を果たしているともいえる。この「本の寺子屋」は、誰のどのような思いから始まり、いかにして地域の人々を惹き付けていったのか。その全貌を第三者の視点から探る。「本の寺子屋」の試みを通じて、今、本にできる事は何か、地域の公共図書館には何が求められているのか、考える示唆を与えるものとしたい。

#### ■推薦の言葉

姜尚中（東京大学名誉教授）：効率性と収益性だけがモノを言う時代に、まるで「反時代」の見本のように持続する本の寺子屋とは、何と素晴らしい場所なのだろう。そこには、人の息吹が、手触りが息づいている。信州しおじり本の寺子屋は、市民たちの「アジュール」（聖域）として、これからも受け継がれていくに違いない。

#### ■目次

第一章 瞬間の王は死んだ／第二章 夜明け前／第三章 温泉の湯のような／第四章 ご近所を刺激してます／執筆余滴 情熱は伝播する・付録 開講記録

■著者 「信州しおじり 本の寺子屋」研究会

#### ■仕様

四六判、152 ページ、ソフトカバー 定価：1,200 円＋税 ISBN 978-4-8096-7829-5 C0095  
発行：東洋出版 取次搬入：2016年4月28日